

会 議 録

会議の名称	第7期2月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	令和4年2月9日（水） 午後7時15分から午後7時30まで
開催場所	小金井市役所第二庁舎 801会議室
出席者	<p>【委員】※各専門部会の部会長のみ 加瀬 進委員（会長、生涯発達支援部会部会長）、吉岡 博之委員（副会長、相談支援部会部会長）、石塚 勝敏委員（社会参加・就労支援部会部会長）</p> <p>【事務局】 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課相談支援係主査 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第7期 2月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会のとおり

第7期 2月期 小金井市地域自立支援協議会 合同部会 会議録

1 開会

(会長)

ただいまから自立支援協議会 合同部会を開催したいと思います。
まず、各専門部会からの報告ということで相談支援部会からお願いします。

2 部会からの報告

(1) 相談支援部会

今日は部会としては今年度最後ですので、来期に橋渡しという意味合いも含めまして、今課題となっている地域生活支援拠点等の話をしました。あと、相談支援事業所連絡会の具体的な日程が決まりました。それについての話を中心にいたしました。

拠点については、改めて来期の委員の方にわかりやすい説明をするためには、基本的な内容をもう一度振り返って、こういうような内容だということについて少し話を深めまして、こんな内容で小金井市がこういうところを目指しているということを協議しました。また、なぜ相談支援事業所とか、いろんな事業所が地域生活支援拠点に関係しなくてはいけないのかということ、わかりやすく説明できるような内容についていろいろと協議を行いました。

また、相談支援事業所連絡会につきましては、令和4年2月21日の2時から開催ということが決定をしましたので、そこでどんな内容を話すかということについても確認を取って、次の全体会の方で共有できればというお話をしました。

また、その協議の前に、障害者週間のシンポジウム企画についての小幡さんと佐藤さんからの提言につきまして、皆さんにご意見を伺い、やはり企画をしっかりと立てて講師を呼ぶという形で、進めてはどうかと。来期である第8期第1回の5月から、すぐにそれについて話し合うというのはどうだろうかというような結論に至りました。

(2) 社会参加・就労支援部会

社会参加・就労支援部会では、市内の事業所に行ったアンケート結果の途中経過の報告をさせていただいて、回収したアンケートの、実際上がってきたものを見て、どういう意見があるかということで会を持ちました。

そのアンケートの中の項目で、行っている作業等がありましたが、その中で例えば受注している作業とか、販売している物とか、その分けがなかったのも、そういうものがちゃんとわかるとよいのでは、という意見が出ていました。

また、それに伴って取扱商品のところも、例えば、これはもう常時販売しているものだよとか、これは受注品だよとか、そういった日々の内部での作業だよとか、そこら辺がわかるようなものがあつた方がよかつたのではないかと、という意見がありました。これは今後の課題というところできり扱わせていただいたところですよ。

現在、全体の半分ぐらゐの事業所からアンケートが返つてきてゐるという状況なので、出し忘れてゐるというところも、若干あるかとは思ひますが、そうすると、半分ちよつと超えるぐらゐのところから回収できる見込みですよ。

あと、これをホームページに掲載するところ、各団体のURLをハイパーリンクで貼り付けるかどうかっていうところ、事務局の方でご検討いただいた中では、やはり各事業者さんでホームページに、格差があるのではないかと、いうふうなことで、掲載しない方がいいのではないかと、いうことでお話をありましたが、専門部会の中では、やはり市民の方に見てもらふ、知ってもらふという意味では、やはりそういうものがあつた方がよいのではないかと。しかも、今回アンケートに回答していただいているところは知つてほしいというところが回答していただいているので、そこら辺は再度事務局の方で、持ち帰つていただいて、もう一度検討していただければということになってゐます。

今回この事業所一覧ができたので、この事業所でこういう作業をしているからここに通いたいとか、もしくは、こういうものを売つてゐる、事業として行つてゐるからここに頼みたいということが一目瞭然でわかるようなものができたので、それは一つの成果としてあげられるのではないかと考えてゐるところですよ。今後はこちらの方を、さらに良いものにしていくということが、大事なのかなと思つてゐます。

それから、障害者週間シンポジウム企画案について、来期どういふふうやつていくかという話ですが、講師形式、講師を呼んだ形式にするのか招かない形式にするのかというところでは、やはり招かない形式にして手作りでいろいろやつていくには、かなり人手なり時間を要するだろうというふうなこともあり、来年は障害者計画策定の方に入つていくつていうところ、その時間を十分に割くことは難しいのではないかと、いうことが考えられます。いずれにしても、講演会形式、講師を招いた形で、テーマ等は熟考したうえで、やることいいのではないかと、いう話で終わりました。

(会長)

はい、ありがとうございます。

URLのハイパーリンクを貼ることについて、個人的な意見ですが、全部そろわないとやらないということではなくて、やはりやれるところをやるという

のが良いと思いました。

(3)生涯発達支援部会

では生涯発達支援部会ですけれども、大きい柱が2つです。一つは、来年度、どういうふうな内容で進めていくかということと、もう一つは委員からペーパーが出た障害者週間をどうするかということです。

来年度の内容については、障害者計画を見通しながら、現在の障害者計画でうたわれている理念だとか、到達点、それから課題について、まず整理をするのが1回目。

それから、障害者計画の理念と合理的配慮、あるいは障害者の差別解消条例との整合性という課題について洗い出すのが2回目。

この2回を準備期間にしながら、就学前から義務教育段階で1回、例えば、ここでゲストを呼んで、課題の整理をするというのがあって、これが3回目。

それから、後期中等教育、高校から成人期の移行の問題ですね。今年度は委員のご子息のケースをもとに話していただきましたが、ここも当事者の方をゲストに呼んだり、移行支援をやっている方を呼んだりしてというのが、良いのではないかと思います。

それからもう一つは、そうだったのかと思いましたが、「きりり」ができるときに、市の担当課の方も担当課同士で横断的な話し合いをするというのがあったということで、やはり今日もこれまでのいろんな過程を振り返ると、課を超えた連携の問題が出てくるので、一度担当課の人たちに複数集まっていたいて、連携のあり方を協議するというのが1回。

6回目が最後の振り返りということにしようということになりました。

大枠はそれで了解されたということなので。あと、年度当初に生涯発達支援部会は年間こういう計画でやります、というのをきちっと共有をして、途中で次回どうするってということのないようにしましょう、ということで、そういうふうにしていきたいと思っています。

それから障害者週間の件については、講師を呼ぶか、手作りでやるかの方法の問題なので、何を目的にしてやるのかといったときに、一つは、「障害者手帳の有無にかかわらず」という条例が出てきたわけなので、いろいろな支援が必要な人たちがいるので、昨今で言えば、地域共生社会の理解があっているのではないかと思います。やはり、障害者週間の主旨からすると、キャッチーなものがあって、もうちょっと知りたいという人が集まるような企画にする必要があるのではないかと思います。いずれにしろ、時代の課題が地域共生社会で、障害者週間の主旨を確認しながらやっていくと。決定ではないの

ですがちょっと集約しかかったのが、講師の方を招きますが、90分の話ではなくて45分とか短めにして、その後のパネルを入れるとか、あるいは映画もショートムービーとか、テレビでも結構いい話題のものがあるので、30分番組とか40分番組で、そういうのを見てパネルを入れるとかという、キャッチーなもの、何か手作り感とみたいなのが両方あっても良いのではないかなという話が出て、それはそれで面白いかもねというような話になりました。

いずれにしても、これも次期の方に引き継いでいきますが、これは私も強く自立生活支援課の方に申し上げたい、意見具申をしていくと言ったのは、障害者週間実行委員会ができ上がって、午前中を自立支援協議会に頼むのか頼まないのかというのが、実行委員会の中で決まるのはおかしいと思います。自立生活支援課が所管しているのだから、午前は自立支援協議会でお願いします、午後は実行委員会でいろいろ考えてくださいという枠を決めないと、自立支援協議会の企画になるのかどうかがよくわからないので、リーダーシップをとっていただければはっきりとさせてもらおうと、そうすると早い段階から準備ができるっていうことがある。

もし、コロナの影響とかで、それが難しい場合には、もうコロナでやれないときというのは、厳しくても有事なので臨時対応になるので、障害者週間については、もう自立生活支援課の方で枠を決めていただいて、午前は自立支援協議会で、午後は実行委員会ということで決めていただきたいという意見が、私の意見も含めて強く出たということは申し上げておきたいと思います。

質問等よろしいですか。

<質問なし>

専門部会での情報を共有させていただきました。
事務局からの報告事項をお願いいたします。

3 報告事項 (事務局)

ホチキス止めさせていただいた資料をご覧ください。こちらが市報令和4年3月15日号に掲載予定の公募市民の募集についてです。

ご意見をいただきたいのが、下の段の応募方法のところの課題ですが、「障がいのある人が地域で安心して暮らしていくために」というところで、小論文を800字以内で書いていただく予定です。これは、前回も前々回も毎回同じテーマで、このテーマであれば、応募者が、障がいのある方に対してどういうことを思っているのかというのがわかる議題なので良いのではないかなという理由で案と

して出ささせていただきましたが、これでいかがでしょうかというところをお聞きしたいです。

(会長)

衝撃、小論文を書くのですね。入試みたい。これは誰が評価するのですか。

(事務局)

市の理事者である市長、副市長、教育長と、福祉保健部長、自立生活支援課長の5者で評価します。

(会長)

評価の観点は、どういう観点でやるのですか。

入試をずっとやってきた人間からすると、評価の観点はどうするのかと結構ずっと議論になっています。

一つ気になるのは、差別解消条例で「手帳の有無にかかわらず」って入れたたよね。だからここも「手帳の有無にかかわらず、障害のある方の」と入れた方が良いと思います。最初の文章には「市では」というところの「障害のある方」の前に「手帳の有無にかかわらず」を入れてはいかがでしょうか。それから論文のテーマの方も「手帳の有無にかかわらず」というのを入れた方が差別解消条例との整合性がとれるのではないかと思いました。

自立支援協議会の委員は1期で一応交代なのですか。

(事務局)

市民参加条例で委員は3期までは継続できるということになっております。

(会長)

結構変わる見込みですか。

今のメンバーで、ちょうど3期になるので、次期からは手を上げられない人はどのくらいいますか。

(事務局)

3名の委員が現在3期目です。

(会長)

はい、了解しました。

(事務局)

では、「障害者手帳の有無にかかわらず、障害のある人が地域で安心して暮らしていくために」ということで、課題として出させていただきます。

あともう一点、今後の第8期の委員の委嘱に向けたスケジュールを簡単にご説明します。

公募市民の委員募集期間は、令和4年3月1日から3月31日までです。市報の令和4年3月15日号に掲載予定です。選考日が、令和4年4月12日の庁議終了後を予定しております。

その他関係機関の推薦は、令和4年2月25日から3月15日に推薦状をお送りして回答をいただきます。

第8期委員の皆さんの委嘱日は、令和4年5月1日になります。

(会長)

では次回の開催日程等についてお願いします。

(事務局)

今回は全体会で、令和4年3月9日水曜日、第2庁舎801会議室になります。時間は午後5時から7時までです。

(会長)

その他ございますでしょうか。よろしいですか。

では終わりたいと思います。

どうもお疲れさまでした。